HOKKAIDO UNIVERSITY

| | |
|---|---|
| Title | 北海道大学埋蔵文化財調査センターニュースレター　第26号 |
| Issue Date | 2017-03-22 |
| Doc URL | https://hdl.handle.net/2115/68515 |
| Type | journal |
| File Information | newsletter26.pdf |

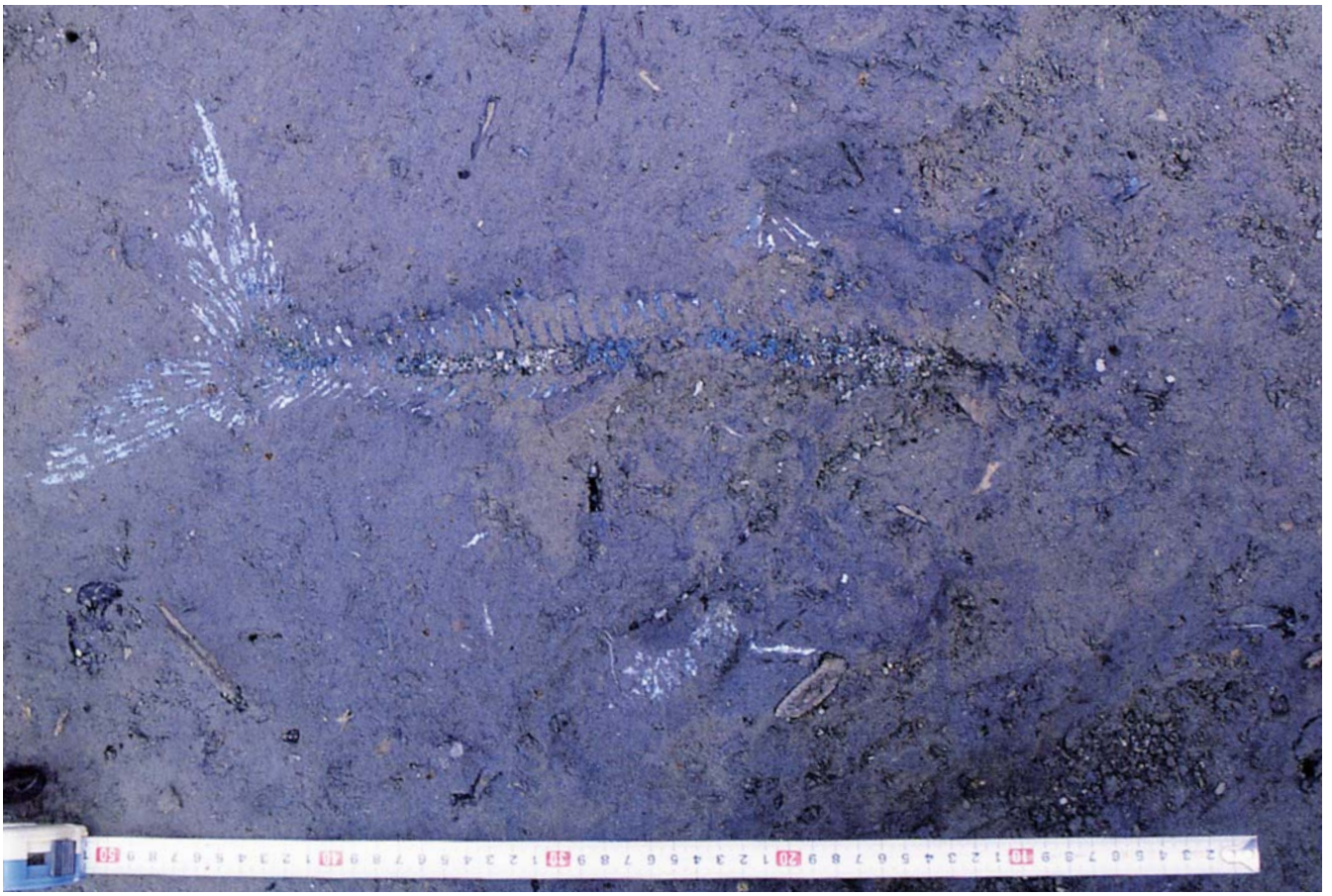
Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

第26号　2017年3月

# 北海道大学 Hokkaido University Archaeological Research Center News Letter
# 埋蔵文化財調査センター ニュースレター

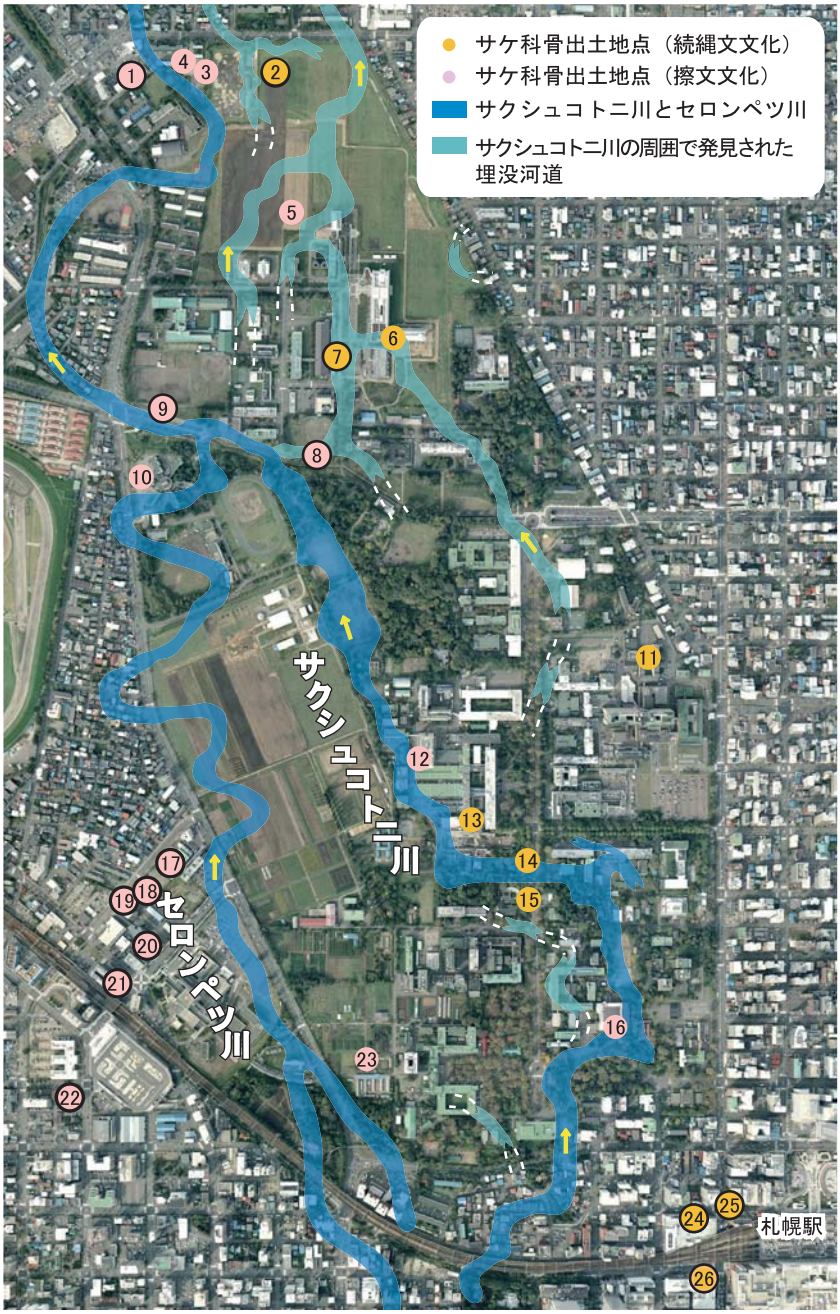
## 特集　サケの考古学

北大構内を流れていたサクシュコトニ川、及びセロンペツ川は、市街化により改変され、現在、埋没・枯渇していますが、その源流は北大植物園、清華亭、知事公館周辺などの湧水（メム）でした。これらの湧水は、扇状地にしみこんだ豊平川の伏流水が扇端（扇状地の末端）で湧き出したものです。こうした豊富な湧水とその清流のため、サクシュコトニ川、及びセロンペツ川は、サケの産卵床として好条件を備え、サケが遡上していたとみられます。これら流域の遺跡からはサケの骨が出土することから、サケ漁が行われていたと考えられます。遺跡から出土したサケは、往時の人々の生業や環境との関わりを知るうえで極めて重要な手掛かりとなります。本特集では、サクシュコトニ川、セロンペツ川流域の遺跡から発見されたサケについて、紹介いたします。



▲クイズ「何が見えるかな？」（K39遺跡エルムトンネル地点発見）
（写真：札幌市埋蔵文化財センター蔵）

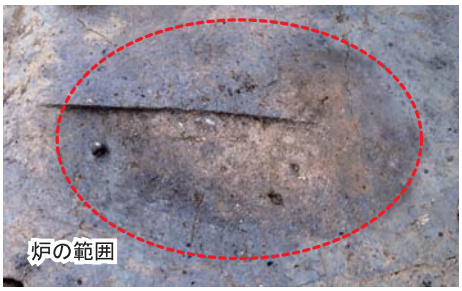
# サケ科の骨が出土した地点




○：札幌市調査地点

▲答え「サケの全身骨格」です。

擦文文化前期～中期（9 世紀～ 10 世紀）の地層から頭部骨以外の全身骨格（体長 40 ㎝以上）が出土しました（サケの全身骨格図を重ねて再現した遺存状態です）。




▲工学部共用実験研究棟地点の屋外炉址 HE05 野外の炉址（長軸 0.9m、短軸 0.7m）で、焼かれて白化・細片化したサケ科の骨が出土しました。続縄文文化末期（5 世紀～ 6 世紀）。

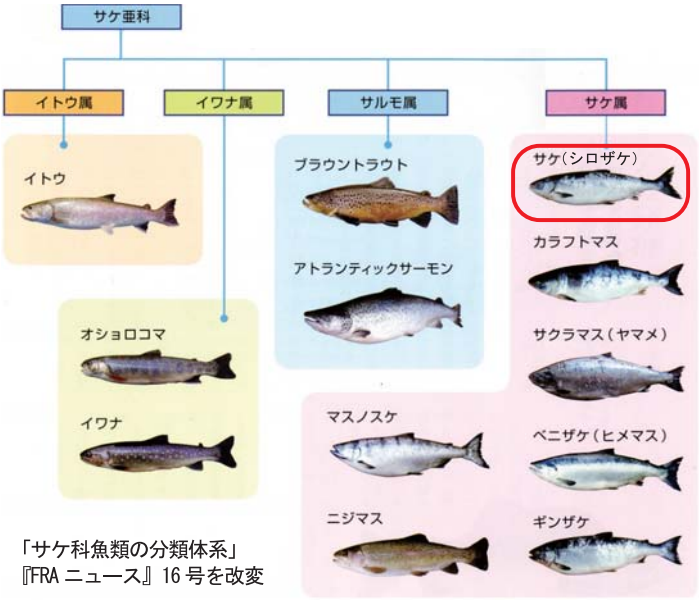
▲国際科学イノベーション拠点施設地点竪穴住居址HP03（擦文文化前期、9世紀頃）のカマド燃焼部。燃焼部の中央で骨片の集中が検出されました。骨片は、焼かれたサケ科やイトヨの骨です。

サケ科の骨が出土した地点の一覧

| No. | 遺跡・地点 | 時期 | 出土位置 | 文献 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | K36遺跡タカノ地点 | 擦文中・後期 | 竪穴住居址等 | 札幌市文化財調査報告書56 |
| 2 | K435遺跡第2次調査地点 | 続縄文後半 | 屋外炉址等 | 札幌市文化財調査報告書63 |
| 3 | K435遺跡南新川国際交流会館地点 | 擦文後期～アイヌ文化 | 屋外炉址 | 北大構内の遺跡18 |
| 4 | K436遺跡南新川国際交流会館外構地点 | 擦文後期 | 竪穴住居址等 | 北大構内の遺跡19 |
| 5 | K39遺跡遺跡国際科学イノベーション拠点施設地点 | 擦文前期 | 竪穴住居址 | 北大構内の遺跡22 |
| 6 | K39遺跡北キャンパス道路地点 | 続縄文後半 | 屋外炉址等 | 北大構内の遺跡18 |
| 7 | K39遺跡第9次調査地点 | 続縄文後半 | 屋外炉址等 | 札幌市文化財調査報告書69 |
| 8 | K39遺跡エルムトンネル地点 | 擦文前～後期 | 屋外炉址等 | 札幌市文化財調査報告書65 |
| 9 | K39遺跡第8次調査地点 | 擦文前・中期 | 屋外炉址等 | 札幌市文化財調査報告書64 |
| 10 | K39遺跡恵迪寮地点 | 擦文中・後期 | 竪穴住居址 | サクシュコトニ川遺跡 |
| 11 | K39遺跡大学病院ゼミナール棟地点 | 続縄文前半 | 屋外炉址 | 北大構内の遺跡21 |
| 12 | K39遺跡工学部J・I棟間地点 | 擦文前期 | 竪穴住居址 | 北大構内の遺跡12 |
| 13 | K39遺跡工学部共用実験研究棟地点 | 続縄文末期 | 屋外炉址等 | 工学部共用実験研究棟地点発掘調査報告書 |
| 14 | K39遺跡中央道路共同溝地点 | 続縄文前半 | 遺物包含層 | 北大構内の遺跡10 |
| 15 | K39遺跡ゲストハウス地点 | 続縄文前半 | 屋外炉址等 | 北大構内の遺跡10 |
| 16 | K40遺跡附属図書館本館再生整備地点 | 擦文前期 | 竪穴住居址 | 北大構内の遺跡19 |
| 17 | K39遺跡第7次調査地点 | 擦文前～後期 | 竪穴住居址等 | 札幌市文化財調査報告書66 |
| 18 | K39遺跡緑化地点 | 擦文中・後期 | 屋外炉址等 | 札幌市文化財調査報告書59 |
| 19 | K39遺跡長谷工地点 | 擦文中・後期 | 竪穴住居址等 | 札幌市文化財調査報告書55 |
| 20 | K39遺跡大木地点 | 擦文後期～アイヌ文化 | 屋外炉址等 | 札幌市文化財調査報告書54 |
| 21 | K39遺跡11条地点 | 擦文中・後期 | 竪穴住居址等 | 札幌市文化財調査報告書48 |
| 22 | C504遺跡 | 擦文前・中期 | 竪穴住居址等 | 札幌市文化財調査報告書77 |
| 23 | K39遺跡農学部実験実習地点 | 擦文中・後期 | 竪穴住居址 | 北大構内の遺跡22 |
| 24 | K135遺跡4丁目地点 | 続縄文後半 | 屋外炉址 | 札幌市文化財調査報告書30 |
| 25 | K135遺跡5丁目地点 | 続縄文後半 | 屋外炉址等 | 札幌市文化財調査報告書30 |
| 26 | K135遺跡第4次調査地点 | 続縄文後半 | 屋外炉址等 | 札幌市文化財調査報告書78 |

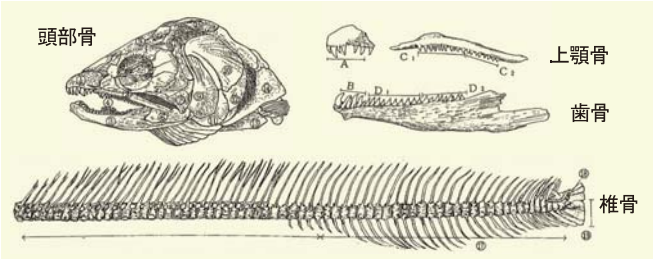
## ■ サケ科の系統分類

サケ科の系統分類については、諸説あります。サケ科は7属（右図では、科と属の中間に亜科があり、4属のみ抜粋されています。）から構成され、日本列島にはサケ属、イワナ属、イトウ属が生息しています。ニジマス、ブラウントラウト、アトランティックサーモンは、外来種です。北海道では、主にサケ（シロザケ）、カラフトマスが遡上します。サケ科は、サクシュコトニ川、セロンペツ川流域の遺跡から出土する魚類の大部分を占め、その中でもサケ属とイワナ属が主体となります。サケ属の中でも、特に、秋に遡上するサケ（シロザケ：右図赤枠）が捕獲の中心だったとみられます。

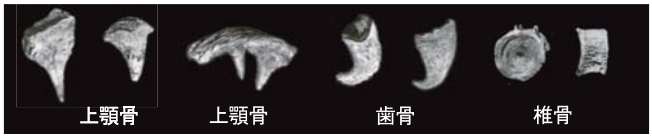



「サケ科魚類の分類体系」
『FRA ニュース』16 号を改変

## ■ サケ科の骨の同定




▲サケ科の骨の同定部位（富岡直人1997「H317遺跡動物遺存体および鹿角製尖頭器について」『札幌市文化財調査報告書46』から作成）

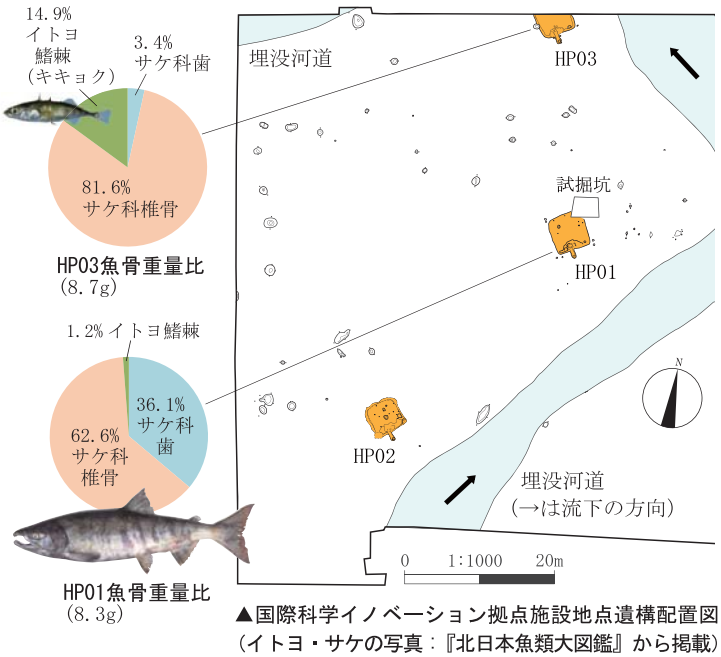



▲K135 遺跡 4 丁目地点出土のサケ属（『札幌市文化財調査報告書 30』から作成）

遺跡から発見された魚骨は、現生の骨格標本と比較し同定されます。同定には、種の特徴を良く示し、遺跡でも残りやすい椎骨、顎骨、歯骨などの部位が用いられます。ただし、サケ科は、系統的に近縁なグループで、骨の特徴が類似しているため、その形質から同定可能なのは属レベルまでです。同定後、遺構や層位ごとに骨格部位を集計してその出土量を分析します。魚類の組成を調べることで、どのような魚がどの程度、消費されていたか推定できます。また、同じ魚種でも骨格部位の比率（片寄り）を調べることで、どのような状態で魚が遺跡に持ち込まれていたのか、有力な情報となります。

## ■ 遺跡から出土したサケ科の骨の解釈

国際科学イノベーション拠点施設地点は、9 世紀頃の小規模な集落址で、竪穴住居址 HP01 と HP03出土の動物遺体について分析を実施しました。HP01 の魚骨はほとんどサケ科、HP03 ではサケ科に加えイトヨが約 15%含まれていました。また、HP03 のサケ科のほとんどが椎骨なのに対し、HP01 のサケ科は歯が約 36%含まれていました。このことから HP03 では頭部が落とされた状態でサケ科が持ち込まれ、HP01 には頭部付きで持ち込まれた頻度が高かった可能性を指摘できます。サケ科搬入後の調理方法や、骨でも残りやすい部位と残りにくい部位があることも考慮する必要がありますが、遺跡から出土した魚骨は、往時の漁労活動や食糧に関する重要な手掛かりとなります。




▲国際科学イノベーション拠点施設地点遺構配置図
（イトヨ・サケの写真：『北日本魚類大図鑑』から掲載）

## ■ 北太平洋沿岸地域におけるサケの加工・保存・調理

▲白老アイヌ民族博物館ポロチセの干鮭
頭部付きシロザケが腹を裂いた状態で干されています。Photo by Sakaguchi, T.

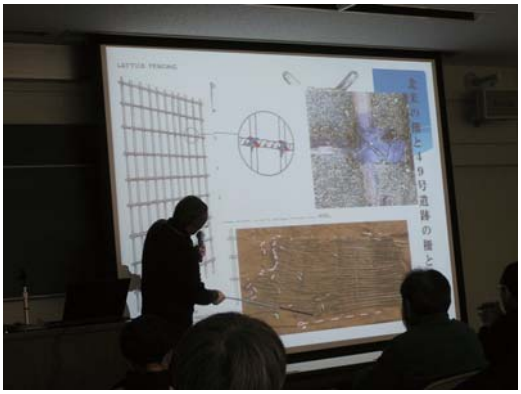
▲カナダ、リルウェットの干し小屋
頭部を落とし3枚に下ろしたベニザケが干されています。Photo by Sakaguchi, T.

▲カナダ、クサンの燻製小屋
頭部を落とし2枚に下ろしたベニザケが燻製されています。Photo by Sakaguchi, T.

サケは、日本列島のみならず北洋沿岸では、重要な食糧として広く用いられてきました。ただし、その加工・保存・調理方法は多様です。白老では頭部付きで寒干し後、干鮭にし、北米ノースウェストでは頭部を落としさばいた状態で干したり、あるいは燻製します。サケ利用に関する多様性は、1)各地域におけるどの種類のサケがいつ遡上するかというサケの生態、2)気候や植生という環境、3)越冬食糧あるいは交易品とするか等の生業的要因、4)どの種類のサケを嗜好するか、あるいは塩のような保存調味料があるか等の文化・歴史的要因に合わせて発展してきたものとみられます。こうした加工・保存・調理の多様性は、部位の片寄り等、遺跡から出土する魚骨の多様なあり方を形成する要因となります。

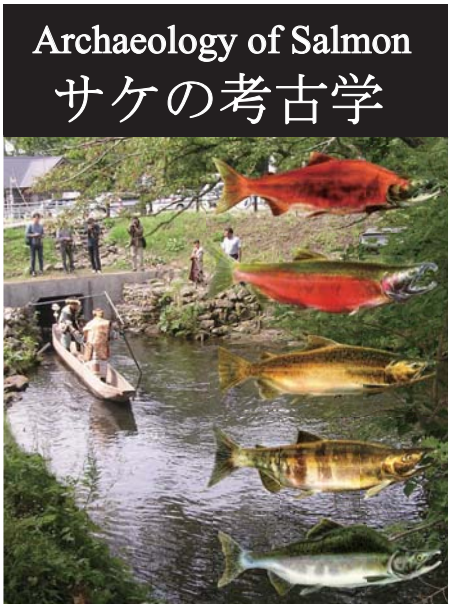
## ■ 第9回調査成果報告会の実施

平成29年3月5日(日)に、第9回調査成果報告会を開催しました。第Ⅰ部では、当センター職員が2016年度に実施された調査の概要について、発表を行いました。第Ⅱ部では、北海道考古学会の石橋孝夫氏に本ニュースレター並びに第6回企画展と連携したテーマで「北海道の遺跡とサケ」という題目の講演をしていただきました。当日、多数の方の参加をいただき、盛会でした。



▲石橋孝夫氏の講演

## ■ 第6回企画展の開催予定




開催時間: 平成29年4月3日～7月3日
開催場所: 当センター展示室
開館時間: 平日9:00～16:30(土日・祝日休館)

### 編　集　後　記

本特集の作成につきまして、以下の諸機関・先生から多くのご教示をいただくとともに、資料掲載につきまして御高配をいただきました(敬称略)。御礼申し上げます(坂口)。阿部常樹(國學院大學)、河合俊郎(北海道大学総合博物館)、佐々木北斗(札幌市豊平川さけ科学館)、田中亮(札幌市埋蔵文化財センター)、矢部衛(北海道大学水産科学研究院)、国立研究開発法人水産研究・教育機構

北海道大学埋蔵文化財調査センター　ニュースレター第26号
平成29(2017)年3月22日発行

発行　：北海道大学埋蔵文化財調査センター
〒060-0811　札幌市北区北11条西7丁目
電話　：011-706-2671　FAX：011-706-2094
e-mail：hokudaimaibun@gmail.com
URL　：http://www.hucc.hokudai.ac.jp/~q16697/maibun/index.html